

厚生労働大臣

殿

川崎医科大学附属病院

学校法人 川崎学園

理事長 川崎明彦



特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	71.0人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	401人	12人	402.5人	看護業務補助	82人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	1人	6.2人	理学療法士	30人	臨床 臨床検査技師	87人
薬剤師	36人	0人	36.0人	作業療法士	26人	衛生検査技師	0人
保健師	5人	0人	5.0人	視能訓練士	11人	検査 その他	0人
助産師	5人	3人	6.9人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	690人	18人	701.8人	臨床工学技士	11人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	2人	0人	2.0人	栄養士	6人	その他の技術員	24人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	1人	事務職員	121人
管理栄養士	23人	0人	23.0人	診療放射線技師	36人	その他の職員	33人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者数及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	677.5人	5.7人	683.2人
1日当たり平均外来患者数	1,342.3人	49.3人	1,391.6人
1日当たり平均調剤数		2,879.9	剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄には、それ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション(前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齲蝕の修復に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	2人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリッド症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その他の重症の癒着性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有・無	人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有・無	人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体室素処理骨移植	有・無	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリーノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・無	人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードⅤの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・無	1人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術(頸椎椎間板ヘルニア(画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のもの(後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断(水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法(肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断(ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・無	人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法(ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存(骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性(欠損性又は感染性偽関節に係るもの)に限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時(初回又は再置換術時)に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術(難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの)に係るものに限る。)	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価(骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るもの)に限る。)	有・無	人
膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るもの)に限る。)	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法(歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るもの)に限る。)	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るもの)に限る。)	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るもの)に限る。)	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るもの)に限る。)	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るもの)に限る。)	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍(食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん)に係るもの)に限る。)	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したのものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したのものに限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有・無	人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。)	有・無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。)	有・無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	有・無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類I b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・無	人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有・無	人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	有・無	人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・無	人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第百七十六号)の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小白歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・無	人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査(閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状(習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。)及び所見(肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。)が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	62人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHF)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。)に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術(虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	55 人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	19 人
・多発性硬化症	36 人	・ウェゲナー肉芽腫症	1 人
・重症筋無力症	57 人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	27 人
・全身性エリテマトーデス	222 人	・多系統萎縮症	28 人
・スモン	10 人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人
・再生不良性貧血	34 人	・膿疱性乾癬	5 人
・サルコイドーシス	34 人	・広範脊柱管狭窄症	5 人
・筋萎縮性側索硬化症	13 人	・原発性胆汁性肝硬変	43 人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	180 人	・重症急性膵炎	15 人
・特発性血小板減少性紫斑病	86 人	・特発性大腿骨頭壊死症	23 人
・結節性動脈周囲炎	50 人	・混合性結合組織病	19 人
・潰瘍性大腸炎	169 人	・原発性免疫不全症候群	3 人
・大動脈炎症候群	29 人	・特発性間質性肺炎	5 人
・ピュルガー病	76 人	・網膜色素変性症	19 人
・天疱瘡	18 人	・プリオン病	0 人
・脊髄小脳変性症	42 人	・原発性肺高血圧症	2 人
・クローン病	136 人	・神経線維腫症	9 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・亜急性硬化性全脳炎	1 人
・悪性関節リウマチ	10 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
・パーキンソン病関連疾患	129 人	・特発性慢性肺血拴塞栓症(肺高血圧型)	2 人
・アミロイドーシス	4 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	1 人
・後縦靭帯骨化症	39 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・ハンチントン病	1 人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床部門と病理診断部門との症例検討会	1 か月	20 回程度
	臨床部門と臨床検査部門との症例検討会	1 か月	12 回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数	51 例	剖検率 11.7 %

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
筋疾患に対するマイオスタチン阻害療法の臨床応用基盤の確立	砂田 芳秀	内科学(神経)	1,230 万円	補委 厚生労働省
福山型筋ジストロフィーおよび類縁疾患のユニークな治療法開発と病態解明	砂田 芳秀	内科学(神経)	250 万円	補委 厚生労働省
筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	砂田 芳秀	内科学(神経)	550 万円	補委 厚生労働省
肝炎ウイルス検査により見出されたHBV、HCVキャリアーの医療機関受診率、専門医受診率、抗ウイルス療法受療率に関する実態調査	日野 啓輔	内科学(肝・胆・膵)	200 万円	補委 厚生労働省
肝発癌における鉄代謝異常と脂質代謝異常のクロストーク	日野 啓輔	内科学(肝・胆・膵)	150 万円	補委 両備禮園記念財団
慢性腎不全における骨・血管に対するエストロゲン効果の検討	佐藤 稔	内科学(腎)	50 万円	補委 日本腎臓財団 腎不全病態研究
糖尿病性腎症の糸球体血管透過性制御における内皮細胞機能の役割	佐藤 稔	内科学(腎)	25 万円	補委 (財)川崎学園医学・医療福祉学振興会
糸球体血管透過性制御における内皮細胞Glycocalyxの役割	佐藤 稔	内科学(腎)	50 万円	補委 岡山医学振興会
糸球体内皮GlycocalyxのMacromolecule透過性における役割	佐藤 稔	内科学(腎)	50 万円	補委 第14回分子腎臓研究会
加齢に伴う腎機能障害機序におけるミトコンドリア機能の解明	佐藤 稔	内科学(腎)	30 万円	補委 両備禮園記念財団
腎臓血管リモデリングにおけるP2×4型受容体の役割の検討	浪越 為八	内科学(腎)	50 万円	補委 循環器学研究振興財団
経口糖尿病薬の臨床評価ガイドラインの策定に関する研究	加来 浩平	内科学(糖尿病)	300 万円	補委 厚生労働省
麻疹・風疹(MR)混合ワクチンの接種効果・安全性・接種率に関する研究	尾内 一信	小児科学	100 万円	補委 厚生労働省
我が国における日本脳炎の現状と今後の予防戦略に関する研究	寺田 喜平	小児科学	210 万円	補委 厚生労働省
早期精神病の予防、早期治療および病態解明に関する臨床的研究	青木 省三	精神科学	80 万円	補委 厚生労働省
国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究	青木 省三	精神科学	50 万円	補委 厚生労働省
精神療法の実施方法と有効性に関する研究	中川 彰子	精神科学	150 万円	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
広汎性発達障害を伴う強迫性障害の特徴についての研究-有用な治療指針の作成のために-	山下 陽子	精神科学	40 万円	補 委	メンタルヘルス 岡本記念財団
前立腺がんに対するHDR組織内照射の臨床試験の研究	平塚 純一	放射線(治療)	100 万円	補 委	厚生労働省
日本人女性の乳がん発症リスクに対する新しいロジスティック回帰モデルの臨床への応用	園尾 博司	外科学(乳)	110 万円	補 委	厚生労働省
本邦での乳癌検体におけるホルモン受容体、HER2受容体発現評価の精度管理システム構築に関する研究	紅林 淳一	外科学(乳)	150 万円	補 委	厚生労働省
難治性過活動膀胱に対するテーラーメイド治療の確立-尿中NGF測定と治療効果の検討-	横山 光彦	泌尿器科学	25 万円	補 委	(財)川崎医学・医療福祉学振興会
超急性期脳梗塞患者の救急搬送及び急性期病院受け入れ体制に関する実態調査研究	木村 和美	脳卒中医学	1,800 万円	補 委	厚生労働省
大動脈原性脳梗塞の病態、診断予防に関する研究	木村 和美	脳卒中医学	180 万円	補 委	国立循環器病センター・内科脳血管部門
我が国における脳卒中再発予防のための急性期内科治療戦略の確立に関する研究	木村 和美	脳卒中医学	100 万円	補 委	国立循環器病センター・内科脳血管部門
スモン集団検診への協力及び日常生活活動の介護保険サービスの利用状況	椿原 彰夫	リハビリテーション医学	70 万円	補 委	厚生労働省
不育症治療に関する再評価と新たな治療法の開発に関する研究	勝山 博信	公衆衛生学	40 万円	補 委	厚生労働省
特発性造血障害に関する研究	通山 薫	検査診断学(病態解析)	100 万円	補 委	厚生労働省

計 11

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計 28

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化と吸収 31(1):54-29、'09	13C-uracil呼吸試験の胃排出能検査としての有用性の検討	楠裕明	総合臨床医学
Jpn J Antibiot 62(1):17-25、'09	イトラコナゾール内用液1%のゼリー化による服薬アドヒアランス向上への試み	和田秀穂	内科学(血液)
J Clin Exp Hematop 48(2):65-69、'08	A peculiar case of acute myeloid leukemia mimicking plasmacytoid dendritic precursor cell leukemia.	Sano Fuminori	〃
Pathology International 58(8):494-497、'08	Small cell variant of anaplastic large cell lymphoma diagnosed by a novel chromosomal abnormality t(2;5;3)(p23;q35;p21) of bone marrow cells.	Sano Fuminori	〃
Leuk Lymphoma 49(9):1784-1791、'08	Validation of the revised 2008 WHO diagnostic criteria in 75 suspected cases of myeloproliferative neoplasm.	Kondo Toshinori	〃
Scand J Infect Dis 40(11-12):990-992、'08	Successful treatment of meningoencephalitis caused by methicillin-resistant Staphylococcus aureus with intravenous linezolid in an allogeneic cord blood stem cell transplant recipient	Kubo Yasutaka	〃
Pathol Int 58(10):626-634、'08	CD8+, CD56+ (natural killer-like) T-cell lymphoma involving the small intestine with no evidence of enteropathy: clinicopathology and molecular study of five Japanese patients.	Sugihara Takashi	〃
ZSZ療育(2008) 2-7、'08	筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	砂田芳秀	内科学(神経)
Support Care Cancer	Feasibility and validity of the Patient Neurotoxicity Questionnaire during taxane chemotherapy in a phase III randomized trial in patients with breast cancer: N-SAS BC 02.	Sunada Y	〃
Acta Myol 27:19-24'08	Caveolin-3 regulates myostatin signaling. Mini-review	Ohsawa Y	〃
Eur J Neurol 16:76-80'09	Muscular fatigue and decremental response to repetitive nerve stimulation in X-lined spinobulbar muscular atrophy.	Hemmi S	〃
平成20年度 総括研究報告書・分担研究報告書 53-55、'09	厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服緊急対策研究事業)「肝炎状況・長期予後の疫学に関する研究」平成20年度分担研究報告書 肝炎対策進捗状況に関する全国調査	日野啓輔	内科学 (肝・胆・膵)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
血液フロンティア 19:65-73、'09	慢性肝障害における鉄代謝異常	日野啓輔	内科学 (肝・胆・膵)
Gastroenterology 136(2):652-662、'09	Direct cytopathic effects of particular hepatitis B virus genotypes in severe combined immunodeficiency transgenic with urokinase-type plasminogen activator mouse with human hepatocytes.	Hino Keisuke	〃
Methods Inf Med 47:529-540、'08	Validating a Markov model of treatment for hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	Hino Keisuke	〃
J Gastroenterol Hepatol 24(2):223-227、'09	Comparison of therapeutic effects between radiofrequency ablation and percutaneous microwave coagulation therapy for small hepatocellular carcinomas.	Yoshioka Naoko	〃
肝胆膵画像 10(6):563-567、'08	早期膵癌発見への新たなアプローチ 膵液の遺伝子発現プロファイル	吉田浩司	〃
Medical Tribune 1-4、'08	高齢C型慢性肝炎に対するPEG-IFN α -2b/リバビリン導入適応と少量長期投与の現状	是永匡紹	〃
Medical Practice 25(10):1881-1887、'08	究極の目標 — 抗ウイルス治療による発癌イベント発生率の抑制効果とその問題点 — ウイルス制御不能な慢性肝炎の治療	是永匡紹	〃
Medicament News 1963:1-6、'08	難治性C型慢性肝炎への治療戦略	是永匡紹	〃
酸化ストレスと肝疾患 4:36-42、'08	C型肝炎ウイルスが惹起する肝脂肪化と酸化ストレス	是永匡紹	〃
酸化ストレスの医学 286-295、'08	肝疾患と酸化ストレス	是永匡紹	〃
Liver Int 28(8):1158-1166、'08	Mitochondrial electron transport inhibition in full genomic hepatitis C virus replicon cells is restored by reducing viral replication.	Korenaga Masaaki	〃
Hepatology Research 38(11):1087-1097、'08	Effects on a late evening snack combined with α -glucosidase inhibitor on liver cirrhosis	Korenaga Keiko	〃
肝臓 49(9):449-451、'08	原発性胆汁性肝硬変における肝発癌因子の検討	富山恭行	〃
Minophagen Medical Review 53(2):115-120、'08	HCV Transgenic mouseにおける鉄代謝障害の分子機構	仁科惣治	〃
肝胆膵 57(5):911-918、'08	C型肝炎のすべて・2009 HCV感染における鉄代謝障害	仁科惣治	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Digestion 77(suppl 1):48-51、'08	Real-Time Assessment of Gastrointestinal Motility by Ultrasonography	Haruma Ken	内科学 (食道・胃腸)
日本臨床 66(7):1379-1384、'08	機能性胃腸症の診断と病態	春間賢	〃
Journal of Gastroenterology 44(2):126-131、'09	Upper gastrointestinal ulcer in Japanese patients taking low-dose aspirin	Shiotani Akiko	〃
J Gastroenterol Hepatol 23(Suppl.2):S161-S166、'08	Sonic hedgehog and CDX2 expression in the stomach	Shiotani Akiko	〃
J Gastroenterol Hepatol 23(7 Pt 2):29-33、'08	Helicobacter pylori infection and allergic diseases: epidemiological study in Japanese university students.	Shiotani Akiko	〃
Neurogastroenterol Motil 20(5):498-504、'08	Characterization of autonomic dysfunction in patients with irritable bowel syndrome using fingertip blood flow.	Tanaka Toshiaki	〃
Digestion 79(2):73-78、'08	Effect of irsogladine maleate on NSAID-induced reduction of gastric mucosal blood flow in anesthetized dogs.	Sato Motonori	〃
J Gastroenterol 43(12):935-941、'08	Real-time evaluation of dyspeptic symptoms and gastric motility induced by duodenal acidification using noninvasive transnasal endoscopy.	Ishii Manabu	〃
Digestion 78((2-3)):163-70、'08	Role of the gastrin-gastrin receptor system in the expansive growth of human gastric neoplasms.	Haruma Ken	〃
Journal of Gastroenterology 43(5):332-337、'08	Relation between histologic gastritis and gastric motility in Japanese patients with functional dyspepsia: evaluation by transabdominal ultrasonography.	Haruma Ken	〃
J Gastroenterol Hepatol 23(7 Pt 1):1063-8、'08	Does magnifying endoscopy improve the diagnosis of erosive esophagitis?	Haruma Ken	〃
J Gastroenterol Hepatol 23(5):746-51、'08	Frequency scale for symptoms of gastroesophageal reflux disease predicts the need for addition of prokinetics to proton pump inhibitor therapy.	Haruma Ken	〃
Atherosclerosis 197:799-805、'08	Relationship Between Coronary Remodeling and Plaque Characterization in Patients Without Clinical Evidence of Coronary Artery Disease.	Okura Hiroyuki	内科学(循環器)
Circulation 118(4):426-427、'08	Images in Cardiovascular medicine. Fibrin Clot Visualized by Optical Coherence Tomography.	Okura Hiroyuki	〃
Kawamoto Takahiro 118(4):426-427、'08	Evaluation of Coronary Endothelial Function by Catheter-Type NO Sensor in High-Fat-Diet-Induced Obese Dogs.	Kawamoto Takahiro	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Am Soc Nephrol 19(12):2293-301、'08	Sun L, Xie P, Wada J, Kashihara N, Liu FY, Zhao Y, Kumar D, Chugh SS, Danesh FR, Kanwar YS.	Kashihara N	内科学 (腎臓・リウマチ)
Perit Dial Int 29(1):111-114、'09	Direct Measurement of Nitric Oxide Concentration in CAPD Dialysate.	Sasaki Tamaki	〃
Hypertens Res 31(4):745-755、'08	Pioglitazone enhances the antihypertensive and renoprotective effects of candesartan in Zucker obese rats fed a high-protein diet.	Tomita Naruya	〃
Hypertens Res 32(3):194-200、'09	Oral adsorbent AST-120 ameliorates endothelial dysfunction independent of renal function in rats with subtotal nephrectomy.	Naruya Tomita	〃
Mod Rheumatol 18(4):379-384、'08	Efficacy of low-dose tacrolimus added to methotrexate in patients with rheumatoid arthritis in Japan: a retrospective study.	Morita Y	〃
Mod Rheumatol 18(4):422-424、'08	Bilateral ureteral stenosis as a complication of Henoch-Schönlein vasculitis.	Morita Y	〃
Modern Rheumatology 18(5):526-528、'08	Co-occurrence of poststreptococcal reactive arthritis and acute glomerulonephritis.	Tokura T	〃
Nephrology dialysis transplantation 23(12):3806-13、'08	Angiotensin II type 1 receptor blocker ameliorates uncoupled endothelial nitric oxide synthase in rats with experimental diabetic nephropathy	Minoru Satoh	〃
Modern Rheumatology 18(5):496-498、'08	Abdominal pain as the initial presentation of Takayasu arteritis.	Sasae Y	〃
Diabetes Journal 36(2):66-69、'08	糖尿病大血管症抑制のための血糖管理 -CUBICセオリーの提唱-	加来浩平	内科学 (糖尿病・内分泌)
プラクティス 25:244-247、'08	夜間低血糖発現リスクと朝食然空腹時 血糖値 -持効型溶解インスリンアナログ 製剤のすすめ-	加来浩平	〃
プラクティス 25(6):6-9、'08	生理的インスリン分泌を再現するために -インスリンデテミルとは-	加来浩平	〃
Diabetes Res Clin Pract 81(1):13-18、'08	Effects of Sulfonylurea Drugs on Adiponectin Production from 3T3-L1 Adipocytes: Implication of Different Mechanism from Pioglitazone.	Kanda Yukiko	〃
糖尿病 51(8):777-781、'08	コハク酸シベンゾリンにより低血糖を来たした高齢者の1例	濱本純子	〃
Diab Res Clin Pract 81(2):161-168、'08	Dose-dependent improvement in glycemia with once-daily liraglutide without hypoglycemia or weight gain: A double-blind, randomized, controlled trial in Japanese patients with type 2 diabetes.	Kaku Kohei	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Pharmacol Sci. 108(3):274-279, '08	Low, but physiological, concentration of GLP-1 stimulates insulin secretion independent of the cAMP-dependent protein kinase pathway.	Kaku Kohei	内科学 (糖尿病・内分泌)
Endocrine J 56(1):45-53, '09	MIN6 is not a pure beta cell line but a mixed cell line with other pancreatic endocrine hormones.	Kanda Yukiko	//
CVI 15(7):1128-1131, '08	Rapid and simple diagnosis of <i>Chlamydomphila pneumoniae</i> pneumonia by an immunochromatographic test for detection of immunoglobulin M antibodies.	Ouchi Kazunobu	小児科学
Jpn J Mycoplasmaology 35:56-57, '08	Macrolide-resistant <i>Mycoplasma pneumoniae</i> in patients with community-acquired pneumonia.	Kawai Yasuhiro	//
Med Sci Monit 14(8):CR387-391, '08	<i>Mycoplasma pneumoniae</i> pneumonia in the elderly.	Ouchi Kazunobu	//
Respirology 13(3):427-431, '08	Comparison of serological tests for detection of immunoglobulin M antibodies to <i>Chlamydomphila pneumoniae</i> .	Ouchi Kazunobu	//
Kawasaki Medical Journal 34(3):165-170, '08	Booster effect of rubella vaccination in college students with pre-existing low antibody titers in japan	kihei Terada	//
感染症学雑誌 83(1):26-30, '09	風疹HI法の抗体価はEIA法でどのくらいか	寺田喜平	//
感染症学雑誌 82(5):414-418, '08	麻疹・風疹混合(MR)ワクチンの2回接種における安全性と有効性	寺田喜平	//
日本小児血液学会雑誌 22(4):247-250, '08	血友病Aインヒビター陽性例の口蓋裂閉鎖術に対する遺伝子組み換え型活性型第VII因子製剤投与法の工夫	川崎浩三	//
児童青年精神医学とその近接領域 49(4):414-416, '08	思春期面接の基本と進め方	青木省三	精神科学
治療 90(8):2287-2293, '08	成人期の広汎性発達障害の理解と援助	青木省三	//
精神科臨床サービス 8(3):352-356, '08	当面の見通しをどう伝えるか 見通しをどのように伝えるか 統合失調症や気分障害の初診時を中心として	青木省三	//
臨床精神医学 37(9):1111-1115, '08	変化するうつ病とその治療について考える	青木省三	//
臨床精神医学 37(12):1511-1514, '08	成人期臨床における広汎性発達障害を考えるにあたって	青木省三	//
精神医学 50(1):11-18, '08	日常臨床におけるコミュニケーションを考える	青木省三	//

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
そだちの科学 (11):112-118, '08	思春期における広汎性発達障害—外来診療から	青木省三	精神科学
精神科 14(1):54-57, '09	特集 精神科診断と分類について—ICD-11の課題— F7:精神遅滞(知的障害), F8:心理的発達の障害, F9:小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	青木省三	〃
心療内科 12(3):215-218, '08	乳癌や家庭状況などへの多元的配慮が必要であった双極性障害の1例	山下陽子	〃
強迫性障害の研究 (9):3-9, '08	Perospironeの追加投与後に行動療法が進みやすくなった確認強迫の1例	山下陽子	〃
精神療法 34(2):207-215, '08	精神療法とはなにか—薬物療法以前に考えるべきこと—	山下陽子	〃
臨床精神医学 37(12):1543-1549, '08	強迫性障害と広汎性発達障害	中川彰子	〃
Psychiatry res neuroimaging 163(3):236-247, '08	functional MRI study of brain-activation alterations in patients with obsessive-compulsive disorder after symptom improvement.	Nakagawa A	〃
Psychother Psychosom 77(6):393-394, '08	Outcome of additional behaviour therapy including treatment discontinuation for fluvoxamine non-responders with obsessive-compulsive disorder.	Nakagawa Akiko	〃
臨床精神医学 37(6):779-785, '08	fMRIでみる強迫性障害の脳機能	中川彰子	〃
AJR Am J Roentgenol 191(2):550-554, '08	Portal venous system: evaluation with unenhanced MR angiography with a single-breath-hold ECG-synchronized 3D half-Fourier fast spin-echo sequence	Ito Katsuyoshi	放射線医学 (画像診断)
J Vasc Interv Radiol 19(3):333-341, '08	Iodized Oil Accumulation in Hypervascular Hepatocellular Carcinoma after Transcatheter Arterial Chemoembolization: Comparison of Imaging Findings with CT during Hepatic Arteriography	Ito Katsuyoshi	〃
Magn Reson Imaging 26(1):65-71, '08	Small hepatocellular carcinomas in cirrhosis: differences in contrast enhancement effects between helical CT and MR imaging during multiphase dynamic imaging	Ito Katsuyoshi	〃
Magn Reson Imaging 27(6):801-806, '09	Hepatocellular lesions with increased iron uptake on superparamagnetic iron oxide-enhanced magnetic resonance imaging in cirrhosis or chronic hepatitis: comparison of four magnetic resonance sequences for lesion conspicuity	Ito Katsuyoshi	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Comput Assist Tomogr 32(3):397-402, '08	Superselective intra-arterial chemotherapy for advanced maxillary sinus cancer: an evaluation of arterial perfusion with computed tomographic arteriography and of tumor response	Ito Katsuyoshi	放射線医学 (画像診断)
Radiology 248:531-539, '08	Prostate Cancer : Relationships between Postbiopsy Hemorrhage and Tumor Detectability at MR Diagnosis	Tamada Tsutomu	//
J Magn Reson Imaging 28(3):720-726, '08	Apparent diffusion coefficient values in peripheral and transition zones of the prostate: Comparison between normal and malignant prostatic tissues, and correlation with histological grade	Tamada Tsutomu	//
J Magn Reson Imaging 29(3):636-640, '09	Dynamic contrast-enhanced magnetic resonance imaging of abdominal solid organ and major vessel: comparison of enhancement effect between Gd-EOB-DTPA and Gd-DTPA	Tamada Tsutomu	//
J Magn Reson Imaging 28(3):720-726, '08	Apparent diffusion coefficient values in peripheral and transition zones of the prostate: Comparison between normal and malignant prostatic tissues, and correlation with histological grade	Sone Teruki	放射線医学 (核医学)
J Appl Physiol 106(6):1594-1600, '08	Jump exercise during remobilization restores integrity of the trabecular architecture after tail suspension in young rats.	Sone Teruki	//
J Magn Reson Imaging 29(3):636-640, '09	Dynamic contrast-enhanced magnetic resonance imaging of abdominal solid organ and major vessel: comparison of enhancement effect between Gd-EOB-DTPA and Gd-DTPA	Sone Teruki	//
Radiology 248:531-539, '08	Prostate Cancer : Relationships between Postbiopsy Hemorrhage and Tumor Detectability at MR Diagnosis	Sone Teruki	//
日本航空医療学会雑誌 9(1):16-23, '08	ドクターヘリ事業における患者関係者同乗に関する調査研究	荻野隆光	救急医学
THE GI FOREFRONT 4(1):74-76, '08	外科からみた食道胃接合部癌	平井敏弘	外科学(消化器)
外科治療 98(2008増刊):1-9, '08	道胃接合部癌の病態と早期診断・治療—外科からみた食道胃接合部癌—	平井敏弘	//
川崎医学会誌 34:1-6, '08	食道がんに対するわれわれの治療方針とその成績—特に、経横隔膜的食道亜全摘術について—	平井敏弘	//
外科治療 99(1):1-5, '08	さらなるGIST治療の進展をめざして	平井敏弘	//
手術 61(12):1771-1776, '08	噴門部早期癌に対するLES・神経温存噴門部分切除術の術式と成績	松本英男	//

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
川崎医学会誌 34(1):21-32, '08	胃癌におけるセンチネルリンパ節同定の臨床的意義に関する検討	平林葉子	外科学(消化器)
川崎医学会誌 34(2):145-151, '08	成人臍ヘルニア手術例の臨床的検討—特にヘルニア嵌頓の緊急手術例について	浦上 淳	〃
静脈経腸栄養 23(増):162, '08	間接熱量測定による食道癌患者の周術期のエネルギー評価 —病期による比較検討—	岡 保夫	〃
Acta Medica Okayama 62(2):69-74, '08	Preoperative oral administration of Pentoxifylline ameliorates respiratory index after cardiopulmonary bypass through decreased production of IL-6.	Kazuo Tanemoto	外科学 (胸部心臓血管)
Journal of Echocardiography 6(3):67-73, '08	Three-dimensional echocardiographic measurements of distance between papillary muscles and mitral annulus: Assessment with three-dimensional quantification software system	Tanemoto Kazuo	〃
Jpn J Clin Oncol 38(6):451-454, '08	Multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia associated with tuberous sclerosis: differentiation from multiple atypical adenomatous hyperplasia.	Nakata Masao	〃
Respirology 13(7):1076-1081, '08	Clinicopathological analysis of multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia associated with tuberous sclerosis in Japan.	Nakata Masao	〃
J Thorac Oncol 3:483-90, '08	Lung Cancer with Localized Ground-Glass Attenuation Represents Early-Stage Adenocarcinoma in Nonsmokers	Nakata M	〃
日本血管外科学会雑誌 17(5):539-544, '08	下肢閉塞性動脈硬化症に対する末梢側がカフ形状した人工血管(Distaflo TM)の長期成績	正木久男	〃
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 14(5):322-324, '08	Long Survival after Resection for Lung Metastasis of Malignant Peripheral Nerve Sheath Tumor in Neurofibromatosis 1	Katsuhiko Shimizu	〃
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 7:1001-1006, '08	Recent results regarding the clinical impact of smoking history on postoperative complications in lung cancer patients	Katsuhiko Shimizu	〃
J Thorac Cardiovasc Surg. 136(1):225-7, '08	Teratoma with malignant transformation in the anterior mediastinum.	Shimizu Katsuhiko	〃
川崎医学会誌 34(1):47-56, '08	間欠的一酸化窒素吸入療法が血中一酸化窒素濃度に及ぼす影響	稲垣英一郎	〃
J Surg Oncol 97(5):392-395, '08	Benefit of mediastinal and para-aortic lymph-node dissection for advanced gastric cancer with esophageal invasion.	Sonoo Hiroshi	外科学 (乳腺甲状腺)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer Chemother Pharmacol 61(6):989-995, '08	Capecitabine and paclitaxel combination chemotherapy for inoperable or recurrent breast cancer: a phase I dose-finding study by the Kinki Breast Cancer Study Group.	Kurebayashi Junichi	外科学 (乳腺甲状腺)
J Cancer Res Clin Oncol 134(5):561-567, '08	Low nuclear grade but not cell proliferation predictive of pathological complete response to docetaxel in human breast cancers.	Kurebayashi Junichi	〃
Int J Oncol 34(2):313-319, '09	Resistance to paclitaxel therapy is related with Bcl-2 expression through an estrogen receptor mediated pathway in breast cancer.	Kurebayashi Junichi	〃
J Clin Oncol 27(9):1368-1374, '09	Oral Uracil and Tegafur Compared With Classic Cyclophosphamide, Methotrexate, Fluorouracil As Postoperative Chemotherapy in Patients With Node-Negative, High-Risk Breast Cancer: National Surgical Adjuvant Study for Breast Cancer 01 Trial	Sonoo Hiroshi	〃
Thyroid 19(1):21-25, '09	The expression of monocyte chemotactic protein-1 in papillary thyroid carcinoma is correlated with lymph node metastasis and tumor recurrence.	Tanaka Katsuhiko	〃
乳癌の臨床 23(5):357-370, '08	術前薬物療法の効果判定をめぐる諸問題】術前薬物療法の効果判定における超音波診断の現状と展望	中島一毅	〃
癌と化学療法 35(9):1607-1610, '08	Paclitaxel+Trastuzumab耐性となった乳癌肝転移にS-1が奏効した1例	園尾博司	〃
川崎医学会誌 34(4):265-277, '08	甲状腺低分化・未分化癌細胞における新規分子標的薬lapatinibと抗癌化学療法剤の併用効果	惣田麻衣	〃
Spine 33(8):845-849, '08	Age-related effects of co-cultured rat nucleus pulposus cells and macrophages on nitric oxide production and cytokine imbalance.	Toru Hasegawa	整形外科
形成外科 51(9):1031-1039, '08	Mulliken変法の利点、欠点	稲川喜一	形成外科学
日本形成外科学会雑誌 28(8):525-528, '08	超音波メス(CUSA)を用いた鼻瘤の治療経験	漆原克之	〃
臨床透析 24(7):819-821, '08	「透析患者診療のための診断基準・重症度スコア 適切な病態評価のために」臨床所見・徴候からのアプローチ 皮膚潰瘍(解説/特集)	篠山美香	〃
皮膚の科学 8(11):21-24, '09	Wnt4による筋分化促進作用と今後の創傷治癒への展望	田中伸吾	〃
Clinical Neuroscience 26(7):806-807, '08	三次元画像 一経錐体到達法における応用	石井則宏	脳神経外科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
脳卒中 30(4):600-603, '08	内視鏡下血腫除去術を施行した、慢性被膜化脳内血腫の1例	横須賀公彦	脳神経外科学
Kawasaki Med J 34(2):99-102, '08	Core vitrectomy is useful for performing phacoemulsification and intraocular lens implantation as primary surgery for acute angle closure glaucoma.	Ieki Yoshiaki	眼科学
Eur J Ophthalmol 18(3):450-452, '08	Primary phacoemulsification and aspiration combined with 25-gauge single-port vitrectomy for management of acute angle closure.	Ieki Yoshiaki	〃
臨床眼科 62(6):939-943, '08	急性閉塞隅角緑内障に対する硝子体手術を併用した超音波白内障手術成績	渡邊一郎	〃
ENTONI 90(7):1-6, '08	特集 副鼻腔疾患の治療—保存的か観血的か・その決断の時— 慢性副鼻腔炎・鼻茸	原田 保	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科臨床 62(6):939-943, '08	スギ花粉症の疫学 —有病率と感作率について—	原田 保	〃
Cerebrovasclar Diseases 62(6):939-943, '08	Sudden deafness and right-to-left shunts	Tachi Tochihiro	〃
耳鼻咽喉科臨床 101(7):549-553, '08	活動性肺結核を合併した頭頸部癌9症例の検討	宇野雅子	〃
岡山医学検査 101(7):549-553, '08	ブロー液の抗菌作用に関する基礎的検討	兵 行義	〃
頭頸部癌 34(1):80-85, '08	超選択的動注化学放射線療法における臓器・機能温存度の検討	秋定 健	〃
耳鼻と臨床 54(補2):S179-S188, '08	超選択的動注療法における摂食・嚥下機能の検討	秋定 健	〃
漢方医学 32(2):96, '08	防己黄耆湯が著効した声帯結節の1例	秋定 健	〃
音声言語医学 50(1):51-52, '09	超選択的動注療法における音声・言語機能温存度の検討	秋定 健	〃
耳鼻と臨床 54(Suppl.2):S179-S188, '08	超選択的動注療法における摂食・嚥下機能の検討	秋定 健	〃
頭頸部癌 34(4):540-543, '08	下咽頭癌進行例に対する超選択的動注療法と放射線同時併用療法の検討	宇野雅子	〃
Otology & Neurotology 29(8):1209-1210, '08	Trisomy 13 syndrome	Fukushima Hisaki	〃
川崎医学会誌 34(2):125-132, '08	頭頸部癌でFDG-PETが有用であった2症例	森 幸威	〃
Otol Neurotol 29(86):879-880, '08	Meniere's disease	Morita Norimasa	〃
Otol Neurotol 29(8):1193-1197, '08	Generalized arteriosclerosis and changes of the cochlea in young adults	Morita Norimasa	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床外科 63(5):717-720, '08	胸廓出口症候群を併存した鎖骨下動脈閉塞症にステント留置を施行した1例	雑賀太郎	耳鼻咽喉科学
Medical Molecular Morphology 41(3):160-164, '08	Characteristic cell wall ultrastructure of a macrolide-resistant <i>Staphylococcus capitis</i> strain isolated from a patient with chronic sinusitis.	Hyo Yuki Yoshi	"
Progress in Medicine 28(11):2792-2795, '08	当科における抗原感作率の検討 小児における抗原感作率の実態	兵行義	"
耳鼻臨床 101(4):317-323, '08	薬剤耐性菌に対するブロー液抗菌効果の基礎的検討	兵行義	"
Equilibrium Res 68(1):21-27, '09	強大音刺激が重心動揺におよぼす影響	柴田大	"
日本鼻科学会誌 47(2):99-104, '08	Pott's puffy tumor様腫脹を認めた外傷性前頭洞炎の一例	柴田大	"
日本鼻科学会誌 47(2):126-130, '08	前頭洞パンチを使用したendoscopic modified lothrop procedure	西池季隆	"
Acta Oto-Laryngologica 128:556-560, '08	Superselective angiographic embolization for intractable epistaxis	Fukutsuji Kenji	"
Progress in Medicine 28(11):2801-2804, '08	エバスチンのスギ花粉症に対する臨床効果 花粉曝露室での検討	福辻賢治	"
西日本泌尿器科学会雑誌 70(3):137-143, '08	高齢者夜間頻尿における脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)測定の意義	横山光彦	泌尿器科学
Acta Medica Okayama 62(6):373-378, '08	A Clinical Investigation of the Mechanism of Loxoprofen, a Non-steroidal Anti-inflammatory Drug, for Patients with Nocturia	Teruhiko Yokoyama	"
Int J Urol 15(10):915-918, '08	Ejaculatory dysfunction caused by the new alpha1-blocker silodosin: A preliminary study to analyze human ejaculation using color Doppler ultrasonography	Nagai Atsushi	"
J Magn Reson Imaging 28(3):720-726, '08	Apparent diffusion coefficient values in peripheral and transition zones of the prostate: Comparison between normal and malignant prostatic tissues, and correlation with histological grade	Jo Yoshimasa	"
Neurourol Urodyn. 27:417-420, '08	Correlation of urinary nerve growth factor level with pathogenesis of overactive bladder.	Yokoyama Teruhiko	"
Prostate Cancer Prostatic Dis. 11(2):134-138, '08	A prospective randomized comparison of diagnostic efficacy between transperineal and transrectal 12-core prostate biopsy.	Hara Ryoei	"
Radiology 248:531-539, '08	Prostate Cancer : Relationships between Postbiopsy Hemorrhage and Tumor Detectability at MR Diagnosis	Jo Yoshimasa	"

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurol Sci 267(1-2):61-67, '08	Atrial fibrillation as an independent predictor for no-early recanalization after IV-t-PA in acute ischemic stroke.	Kimura Kazumi	脳卒中医学
J Neurol Sci 270(1-2):48-52, '08	Recanalization between 1 and 24 hours after t-PA therapy is a strong predictor of cerebral hemorrhage in acute ischemic stroke patients	Kimura Kazumi	〃
Stroke 39(8):2388-2391, '08	Large ischemic lesions on diffusion-weighted imaging done before intravenous tissue plasminogen activator thrombolysis predicts a poor outcome in patients with acute stroke.	Kimura Kazumi	〃
J Neurol Sci 272(1-2):136-42, '08	Hemorrhagic transformation of ischemic brain tissue after t-PA thrombolysis as detected by MRI may be asymptomatic, but impair neurological recovery.	Kimura Kazumi	〃
J Neurol Sci 276(1-2):6-8, '09	IV t-PA therapy in acute stroke patients with atrial fibrillation.	Kimura Kazumi	〃
Stroke 40(1):303-5, '09	The presence of a right-to-left shunt is associated with dramatic improvement after thrombolytic therapy in patients with acute ischemic stroke.	Kimura Kazumi	〃
Stroke 40(e):32, '09	Response to letter by Sharman et al and Leibeskind	Kimura Kazumi	〃
Circ J. 72(6):909-913, '08	Prevalence of atrial fibrillation in community-dwelling Japanese aged 40 years or older in Japan: analysis of 41,436 non-employee residents in Kurashiki City	Iguchi Yasuyuki	〃
Am J Cardiol 102(8):1056-9, '08	Relation of Atrial Fibrillation to Glomerular Filtration Rate.	Iguchi Yasuyuki	〃
Cerebrovasc Dis 26(4):409-412, '08	Sudden deafness and right-to-left shunts	Iguchi Yasuyuki	〃
J Neurol Sci 279(1-2):66-69, '09	Increasing number of stroke specialists should contribute to utilization of IV rt-PA: Results of questionnaires from 1466 hospitals in Japan.	Iguchi Yasuyuki	〃
Intern Med 48(5):259-64, '09	Plasma Brain Natriuretic Peptide Can be a Biological Marker to Distinguish Cardioembolic Stroke from Other Stroke Types in Acute Ischemic Stroke	Shibazaki Kensaku	〃
J Neurol Sci 15(281(1-2)):55-6, '09	Heart Failure may be associated with onset of the Ischemic Stroke with Atrial Fibrillation -A Brain Natriuretic Peptide Study-	Shibazaki Kensaku	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurol Sci 269(1-2):35-40, '08	Neurological deterioration in small vessel disease may be associated with increase of infarct volume	Iguchi Yasuyuki	脳卒中医学
J Neurol Sci 15(272):183-5, '08	Reversible diffusion-weighted lesion in a TIA patient without arterial recanalization: a case report	Iguchi Yasuyuki	〃
Cerebrovasc Dis 23(3):230-234, '09	Contrast Transcranial Doppler Can Diagnose Large Patent Foramen Ovale.	Kobayashi Kazuto	〃
Intern Med 48(5):383-5, '09	Serial T2*WI studies in acute phase of cerebral venous thrombosis	Aoki Junya	〃
J Neurol Sci 271(1-2):203-6, '08	A Case of autoimmune Thyroid Disease Presenting Posterior Reversible Encephalopathy Syndrome.	Iguchi Yasuyuki	〃
J Neuroimaging 18(4):407-10, '08	Contrast-enhanced transcranial color-coded duplex sonography criteria for basilar artery stenosis	Iguchi Yasuyuki	〃
J Neurol Sci 277(1-2):13-16, '09	Right-to-left shunts may be not uncommon cause of TIA in Japan.	Iguchi Yasuyuki	〃
臨床神経学 48(5):311-320, '08	超急性期脳梗塞に対するrt-PA静注療法	木村和美	〃
臨床神経学 48(11):866-70, '08	脳梗塞急性期の診断と治療	木村和美	〃
Oncology 74(Supple 1):105-106, '08	Current status of palliative cancer care in Japan: An innovative wind	Yoshiyuki Yamaguchi	臨床腫瘍学
癌の臨床 54(4):267-272, '08	特集 がん化学療法のあり方 腫瘍外科医の立場から	山口佳之	〃
Biotherapy 22(5):303-308, '08	特集【細胞免疫療法 新しい試み】 $\gamma\delta$ T細胞の誘導	弘中克治	〃
癌と化学療法 35(11):1945-1949, '08	Imatinib治療にてComplete Responseと思われた胃GIST術後肝転移の1切除例	山村真弘	〃
Cancer Immunol Immunother 58(3):441-447, '09	Possible involvement of regulatory T cells in tumor onset and progression in primary breast cancer.	Yamaguchi Yoshiyuki	〃
Hepatogastroenterology 55(86-87):1773-1775, '08	Reconstruction of the middle hepatic vein tributary with resection of the middle hepatic vein trunk: report of a case.	Yamaguchi Yoshiyuki	〃
Int J Oncol 34(2):563-572, '09	Targeting of CD4+CD25high cells while preserving CD4+CD25low cells with low-dose chimeric anti-CD2 antibody in adoptive immunotherapy of cancer.	Yamaguchi Yoshiyuki	〃
川崎医学会誌 34(1):7-20, '08	胃癌細胞株に対するtranilastの抗腫瘍効果とその機序	山村真弘	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
電子情報通信学会技術研究報告(MEとバイオサイバネティクス) 108(98):17-22, '08	ペンドラムテストにおける個人差軽減手法に関する提案 痙縮を対象として	椿原彰夫	リハビリテーション医学
総合リハビリテーション 36(6):585-588, '08	リハビリテーション施行中の脳卒中患者における睡眠時無呼吸症候群の合併	山田裕子	〃
麻酔と蘇生 44(1):8-10, '08	動脈圧波形により示唆された左室流出路動的閉塞(Dynamic Left Ventricular Outflow Tract Obstruction Suggested by An Arterial Pressure Wave form)	Sano Itsuro	麻酔集中治療医学
川崎医学会誌 34(3):203-209, '08	遊離腓骨皮弁移植により再建された下顎への歯科用インプラント義歯症例	石田光生	口腔外科学
検査と技術 36(4):328, '08	ワンポイントアドバイス—環状鉄芽球の重要性とその同定	通山薫	検査診断学 (病態解析)
中毒研究 21(2):169-175, '08	クマリン系殺鼠剤によるワルファリン中毒の1症例について	通山薫	〃
Leuk Lymphoma 49(9):1784-1791, '08	Validation of the revised 2008 WHO diagnostic criteria in 75 suspected cases of myeloproliferative neoplasm	Tasaka Taizo	〃
Blood 112(8):3412-3424, '08	High-resolution whole genome tiling path array CGH analysis of CD34+ cells from patients with low-risk myelodysplastic syndromes reveals cryptic copy number alterations and predicts overall and leukemia-free survival.	Tohyama K	〃
Leukemia 22(10):1874-1881, '08	Myelodysplastic syndrome with chromosome 5 abnormalities: a nationwide survey in Japan.	Tasaka T	〃
Atherosclerosis 197:799-805, '08	Relationship Between Coronary Remodeling and Plaque Characterization in Patients Without Clinical Evidence of Coronary Artery Disease.	Sadahira Yoshito	病理学
J Mol Histol 39(5):527-533, '08	Immunohistochemical detection of sphingosine-1-phosphate receptor 1 in vascular and lymphatic endothelial cells.	Akiyama Takashi	〃
Pathol Int 58(10):626-634, '08	CD8+, CD56+ (natural killer-like) T-cell lymphoma involving the small intestine with no evidence of enteropathy: clinicopathology and molecular study of five Japanese patients.	Akiyama Takashi	〃
Virchows Arch 454(2):217-222, '09	Sphingosine-1-phosphate receptor 1 is a useful adjunct for distinguishing vascular neoplasms from morphological mimics.	Akiyama Takashi	〃
Bone Marrow Transplant 1-11, '09	Cutaneous lymphocyte antigen-positive T cells may predict the development of acute GVHD: alterations and differences of CLA(+) T- and NK-cell fractions.	Tsuchiyama Junjiro	〃

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Mol Med 21(4):499-505, '08	Association between serotonin transporter gene polymorphisms and depressed mood caused by job stress in Japanese workers.	Katsuyama Hironobu	公衆衛生学

計 1

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

合計 208

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 角田 司
管理担当者氏名	病院事務部長 難波 徹

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病院事務部医事課 医学資料部 中央病歴室	(1) 外来診療録：一元番号法 (2) 入院診療録：一連一元番号法 (3) X線フィルム：一元番号法
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課 病院事務部病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績	病院事務部医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院事務部医事課	
	高度の医療の研修の実績	病院事務部病院庶務課	
	閲覧実績	病院事務部医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部医事課 薬剤部	
確規 保則 の第 状9 況条 の 2 3 及び 第 1 条の 1 1 各号 に掲 げる 体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部病院庶務課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	病院事務部病院庶務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	病院事務部病院庶務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 医療機器管理センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理センター		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	〇 (1 名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	〇 (1 名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	〇 ・ 無
<ul style="list-style-type: none">・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (2) 名・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) インシデント報告書に対するリアルタイムな対応(2) 医療安全管理マニュアルの改正とその周知徹底(3) 教育・研修の立案 (全職員の医療安全についての意識を高めるための職員教育講演会でワーキンググループを広報する)(4) リスク管理の充実化を図るため各部署内の医療安全パトロール (ワーキンググループ・医療安全管理委員会が月毎に担当)(5) 患者誤認防止システムの構築に向けての具体的な検討 (トリプルチェックの徹底) を行う。(6) 医療事故分析と対策をニューズレターで啓発 (毎月 2 回発行)(7) 医療安全管理推進週間 (医療安全啓発ポスターを作成して期間中は院内に掲示する)(8) 年用医療安全カレンダーの作成 (院内へ標語の公募を行い手作りカレンダー作製)(9) 私立医科大学病院相互チェックの実施 (当院を含む中国・九州ブロック 4 校でラウンドを行う)(10) 医薬品・医療機器安全管理責任者を配置して医療安全管理体制の強化を図る。	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	〇 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	〇 ・ 無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<p>当院における医療事故防止に係る安全管理の基準、規範となるべき事項を定め、解説して医療安全管理への取り組みの目的を明らかにするものである。</p>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 3 0 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<p>医療安全管理に関する委員会は、まず院内の取り組みを総括する委員会として「病院医療安全管理委員会」を設置し、その下部委員会として、各部門から選出されたリスクマネージャーでリスクマネジメントの具体的な実務及び、医師、看護師、その他各職員への情報公開を図る「リスクマネージャー連絡会議」を位置付けている。また、医療事故の発生事例に対処する「病院医療委員会」を設置している。</p><ol style="list-style-type: none">(1) 病院医療安全管理委員会： 2 2 回開催 病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討して決定する組織である。(2) リスクマネージャー連絡会議： 8 回開催 医療安全管理委員会で審議された事項を通達し各部門に啓発する。(3) 病院医療委員会： 2 回開催 医療事故が発生した場合、その対応方法を検討する。	

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 1 回
--------------------------	---------

・ 研修の主な内容：

当院の安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について職員に周知徹底するため、平成20年度は次の計画をもって運営した。

- (1) 4月：リスクマネージャー連絡会議：65人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理安全管理委員会の報告」「平成20年度リスクマネージャー交替について」「医療版事故調査委員会の第三次試案について」
- (2) 5月：リスクマネージャー連絡会議：62人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」「平成20年度新メンバーとワーキンググループ、平成20年度の医療安全パトロールの実施予定、リスクマネージャーの業務と運用について」
 <平成19年度リスクマネージャー<ワーキンググループ>の活動報告>：864人参加(全職員対象)
- (3) 6月：リスクマネージャー連絡会議：63人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」「医療安全パッチの運用と配布」「医療マニュアルの差替え。追加削除について」
- (4) 7月：休会
 <薬物療法におけるリスク管理>：805人参加(全職員対象)
 <人工呼吸器講習会>：859名参加(医師・看護師対象)
- (5) 8月：休会
 <夏期セミナー「医療と法律」>：200人参加
- (6) 9月：リスクマネージャー連絡会議：60人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
 <平成19年度リスクマネージャー<ワーキンググループ>の活動報告>：692人参加(全職員対象)
- (7) 10月：休会
 <当院における医療安全管理・院内感染管理の取り組みについて>：170人参加
 (中途採用者と未受講者対象)
 <金沢医科大学病院における褥瘡対策チームの現況と問題点>：799人参加
 (全職員対象)
- (8) 11月：リスクマネージャー連絡会議：60人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
 医療安全管理委員会報告「第2回医療安全相互ラウンド結果報告について」、「医療安全マニュアル総論版<第4版>の差替えと追加について」
 <包括評価対策について>：787人参加(全職員対象)
- (9) 12月：休会
- (10) 1月：リスクマネージャー連絡会議：60人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
 <個人情報保護について>：961人参加(全職員対象)
- (11) 2月：リスクマネージャー連絡会議：65人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
 <保険診療について>：757人参加(全職員対象)
- (12) 3月：リスクマネージャー連絡会議：57人参加、「医療安全管理部からと医療安全管理委員会の報告」
 <接遇マナーについて>：853人参加(全職員対象)

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況
--

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) ニュースレターによる情報提供(2回/月発行)
- (2) インシデント・アクシデント防止のため、必要時に注意・啓発目的でDVD(指導・教育用)・標語・ポスターを作成する。
- (3) 医療安全パトロールからの情報提供(医療マニュアルへ予防・対策案を追加記載する)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 院内感染対策の基本的な考え方、院内感染対策委員会とその基本事項、研修に関する基本方針、感染症発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、当該指針の閲覧およびその他院内感染対策推進のための必要な基本方針について記載している。 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： 職種横断的に委員がおり、院内感染対策室の活動状況、ICTの活動、耐性菌の発生状況、抗菌使用状況、問題のある例などが報告され、協議検討されている。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 1回は外部講師による講演会、1回は院内講師で特にワーキンググループ活動で成功例について発表してもらっている。また中途採用者と未受講者を対象にした講演会を実施した。新型インフルエンザ発生時には、全職員に対する説明会などで対応方法について説明を実施した。 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 毎週、院内の耐性菌発生状況が報告され、それによってICTのラウンドとは別に病棟ラウンドしている。またMRSAなど耐性菌の多い病棟や救命救急センター、クリーンルームのある病棟ではワーキンググループを作って活動し、効果をあげている。 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年5回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 新人薬剤師に向けて、新入職員研修プログラムに添った研修実施 (H21.4) ・ 新人医師に向けて、医薬品の安全な取扱いに関する研修会 (H21.4) ・ 新人看護師に向けて、医薬品の安全な取扱いに関する研修会 (H21.4) ・ 1～3年目の看護師対象に「医薬品の安全管理について」研修会開催 (H20.11に2回) ・ 職員教育講演会「薬物療法におけるリスク管理」 (H20.7) 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 業務実施確認チェックリストを利用した医薬品の安全使用確認を半年に1回実施 ・ 医薬品管理チェックリストを用いた病棟、外来処置室における安全使用確認を半年に1回実施 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医薬品安全管理委員会を設置し、医薬品に係る事故の防止及び適切な管理を行うために必要な対応を行うこととした。 院内で発生したインシデント・アクシデント報告は医療安全委員会経由で注射・内服・外用ワーキングチームで対応を検討し、更に医療安全管理委員会に上申、審議の結果を各職種から構成されたリスクマネージャー会議に提出され情報共有する。</p> 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年46回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 新人（看護師、医師）へのME機器安全管理研修 ・ 人工呼吸器に関する研修会 ・ 新規納品医療機器に関する研修会（除細動器、保育器、人工心肺装置など）など 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： <p style="margin-left: 40px;">人工呼吸器、血液浄化関連装置、対外循環関連装置、保育器、除細動器、放射線関連装置、輸液、シリンジポンプなどについての日常点検及び定期点検の計画と実施</p> 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) →医療機器安全管理委員会の定期的な開催にて報告 (月1回程度) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主回収の情報収集及び改善のための方策の実施→5件該当あり (X線骨密度測定システム、酸素濃縮装置、植込み型心臓ペースメーカーなど) ・ 当院からの不具合報告→1件該当あり (人工呼吸器ディスプレイ回路不良品について) 	

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 難波 徹
閲覧担当者氏名	病院庶務課長 大賀 孝子、医事課長 小林 宏規
閲覧の求めに応じる場所	病院庶務課(応接室)

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.8%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		11,833人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,762人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,096人
	D：初診の患者の数		36,099人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。